

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC Design Award 2013 発表&表彰式  
ーソフトPVCで日本の力をためす作品が選ばれましたー

PVC Design Award 事務局

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景（80）ー【敏達天皇】ー

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

◇PVC Design Award 2013 発表&表彰式  
ーソフトPVCで日本の力をためす作品が選ばれましたー

PVC Design Award 事務局

10月28日に、東京一ツ橋の如水会館で、「PVC Design Award 2013」の表彰式と記念パーティーが約120名の関係者の参加を得て開催されました。

今年5月7日にキックオフしたこの「PVC Design Award 2013」には、全国から220件のデザイン提案と107件の製品応募、合計327の応募が寄せられ、大竹審査委員長をはじめ審査員の皆様の厳正中立な審査で、一次審査、最終審査を経て、大賞、優秀賞、入賞、佳作が決まりました。[\(受賞作品一覧\)](#)



森実行委員長  
(VEC 会長) 挨拶



大賞受賞者の表彰  
(上：石田様／下：草深様)

大賞には審査委員満票で甲乙付け難いレベルのため、ふたつの作品が選ばれました。ひとつは、ジャパン・プラス社石田麻紀様の「DECO BAG」で、量販店向けショッピングバッグ用に開発されたものです。表裏の角型凹凸が緩衝材の役割もする包装として使え、ソフトPVCの透明感のある光沢と軟らかさが活かされています。また、もう一方の大賞は、マインドクリエイトジャパン社草深仁志様の「AIRQUIN (エアキン)」で、従来型マネキンに比べ展示スペースを自由に活用できる空気ビニル製マネキンです。細かな身体の線を大切に表現した完成度の高さと多数のパーツを融着して空気漏れを防ぐ作り手の確かさを評価されました。

優秀賞もデザイン提案から選ばれたふたつの作品で、いずれもデザイナーと制作者との共同作業が結実した素晴らしいものになりました。ひとつは内田亮太様の「CELL」で、カラフルな多層構造のパソコンケースです。

もう一つは三澤健人様達の「AIR CELL」で、ガラスに貼り、子どもを守る衝突防止パッドです。その他に、入選11点、佳作5点が選ばれ、発表&表彰式の会場で展示、紹介されました。

後援頂いた経済産業省の谷審議官と日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）の田中理事長にご挨拶頂き、森実行委員長（塩ビ工業・環境協会会長）から受賞者に表彰状と副賞の目録が手渡され、出席者の盛んな拍手で祝福されました。また、主催団体の日本ビニル工業会伊藤会長からデザイン提案の試作や多数の製品応募を頂いた方々に感謝状が贈呈されました。



経済産業省  
谷審議官



JIDA  
田中理事長

賞状と感謝状の贈呈に続いて、大竹審査委員長から、PVC Design Award 2013の応募と選考に当たったの講評が行われ、3回目を迎えた今回の応募作品のレベルの高さと今後に向けた期待が述べられました。伊藤会長から閉会のご挨拶があり、受賞された方々を中心に、関係者一同の記念撮影が行われ、参加頂いた多くのメディアの方から熱心な取材があり、無事に表彰式が執り行われました。

引き続き、受賞者を主賓に、多くの参加者が集まり記念パーティーが行われ、あちこちに話しの花が咲きました。このPVC Design Award 2013を陰で支えた実行員会の事務局にとって、これまで以上の良い記念すべき一日になりました。この取り組みが継続し、デザイナーの方々の関心を集め、さらに発展していくことを関係者一同願っています。



受賞者の皆様

尚、この受賞作品と惜しくも入選を逃したデザイン提案・作品について、応募者の了解を得て、東京、名古屋、大阪、福岡の各会場で[展示会](#)を行いますので、是非、見に来て頂きたいと思います。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景（80）－【敏達天皇】－

木下 清隆

欽明朝は、伊勢大神として祀られていた初代倭王と神門<sup>かんど</sup>との関係を修復し、出雲全体との関係改善が始まった時代だったといえる。これに対し、敏達天皇の時代は、伊勢大神を更に大きく国家神に変貌させた時代だったといえよう。その仕掛けが「日神」の誕生である。これは伊勢大神の名称が替わっただけでなく、この神が倭王家の祖神から倭国の祖神へ生まれ変わったことを意味している。国家の祖神を定めることにより、画龍<sup>ひとみ</sup>に睛を点じたのである。ここにヤマト国家が誕生した。

この国家誕生とは、倭王を中心とした倭国の体制に、誰も異を唱える者が居なくなったという意味である。後世に出来上がったような律令体制が整備されたといった意味ではない。二六〇年ころ初代倭王が、『新生倭国連合』の王として迎えられた時代と、約三百年経って、欽明・敏達の両倭王が誕生した時代とでは、その権力はまさに雲泥の差となっていたということである。

このことは倭国連合がスタートした時点では個々の首長たちが保持していた権力を、最終的に倭王が全てを奪い取ったことになる。このような結果になることなど、当初は誰も想像だにしていなかったに違いない。しかし、応神王家が誕生した頃から、これはおかしいと気付いた首長達は多くいたと思われる。しかし、時既に遅しの段階だったのである。その後、紆余曲折はあったが、倭王を中心とした倭国統一の流れを誰も止めることは出来なかったのである。そして、倭王は絶大なる権力者となった。

こうして倭国は統一された。しかし、倭国という屋台骨には蘇我氏という蔦が、この後、びっしりとまつわり付くのである。この蔦があらかた根絶やしにされたとき、初代倭王に委ねられた大任が、大権を持った大王の誕生という、全く予想外の形で完成することになる。それは未だ先のことで、天武天皇の誕生によってそれは成し遂げられる。

ここに、敏達天皇がヤマト国家の形を作ったと述べたが、その理由は、敏達紀の冒頭に、「天皇、仏法を信ぜずして、文史を愛でたもう」と記されている点にある。仏法は先帝の欽明朝に百済から伝えられ、この時代、蘇我氏が物部氏らの反対を押し切って、その興隆に努めていた時期である。欽明天皇が蘇我氏によって支えられていたことから、天皇が仏法擁護の立場を取ったのは、当然のことだったと言えよう。



天照神社（福岡県鞍手市）

これに対し、敏達天皇は反対の立場を取り、「文史」の世界を愛好したとみられる。「史」とは記録を司った官のことであり、その記録がまとめれば歴史書になる。要するに、敏達天皇は、初代倭王に始まる王家の系譜を整理したということである。そして、父の欽明帝が倭王家にとっての祖神と位置付けた伊勢大神を、倭国の祖神に格上げしたのである。このため、天皇はこの祖神に贈られていた諡号「櫛玉饒速日尊」を更に立派なものにして、再度奉じた。その諡号が「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」だったのである。

この諡号はあまりに長いので、最後の「日」を取って「日神」と呼ばれたと考えられる。従って、この時に「日神」が誕生したのであり、その誕生は比較的新しいといえる。字面から太陽信仰が天皇家では古くから行なわれていた、と言った考え方が根強いが、それは後世になって出てきた解釈である。更にこの諡号から「天照国照彦火明命」、「火明命」等の略称が生まれ、先の「饒速日命」、「櫛玉命」と合わせると多くの略称が生まれたことになる。これらは全て、「初代倭王の御魂」であり、「伊勢大神」であり、「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」を意味しているということである。

この諡号はあまりに長いので、最後の「日」を取って「日神」と呼ばれたと考えられる。従って、この時に「日神」が誕生したのであり、その誕生は比較的新しいといえる。字面から太陽信仰が天皇家では古くから行なわれていた、と言った考え方が根強いが、それは後世になって出てきた解釈である。更にこの諡号から「天照国照彦火明命」、「火明命」等の略称が生まれ、先の「饒速日命」、「櫛玉命」と合わせると多くの略称が生まれたことになる。これらは全て、「初代倭王の御魂」であり、「伊勢大神」であり、「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」を意味しているということである。

天武朝になると今度は、この諡号から「天照大神」が誕生する。この天照大神は更に女神に変化を遂げることになるが、このことは後で改めて論じることにする。

この「日神」を祭祀するための組織が新たに作られる。それが日祀部<sup>ひまつり</sup>である。敏達天皇六年二月条に、「詔して、日祀部<sup>ひのまつりべ</sup>を置く」と出ていることから、その存在が知れるが、この簡単な文以外に何も記されていないことから、日祀部については判っていないことが多い。

この日祀部に関しては、先に上田氏の所説を紹介したが、このほかに、岡田精司氏の『古代王権の祭祀と神話』『日奉部と神祇官先行宮司』の中で詳細な検討が加えられている。先ず、日祀部と日奉部とは同じであることが述べられているが、日奉部については、

「日奉部は天皇の行なう太陽神の祭祀——農耕儀礼と不可分の——に関わるものであった。」(一二二p)

と結論されている。このような解釈が日神、即ち太陽神、の立場からのものであることは明らかで、本考での日神、即ち初代倭王の立場とは異なっている。ただ、明確なのは、日祀部が神の祭祀に係わる部であり、上田氏の結論を加味すれば、この部は日置部とは異なる組織だったことである。

更に岡田氏は日奉部の全国分布を調べて、一五ヶ所の地名を挙げ、

「やはり日奉部は特に辺境の地を選んで設けたものと思われぬのである。」

(一一〇p)

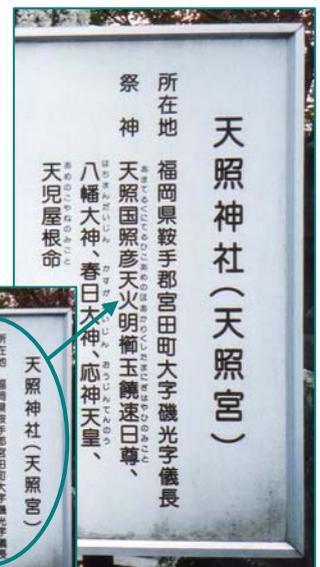
と指摘している。なぜ辺境の地なのかについては、この日奉部の設置が数次にわたって行なわれたため、より遠隔地に設けられた、との説明がされている。このような解釈も当然ありうるが、敏達天皇にしてみれば、日神を全国津々浦々までに知らしめたいとの意向があったからだ、との解釈も有り得よう。

このように見てくると、日祀部は新しく誕生した「日神」即ち「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」を祭祀するための組織であったと解釈できよう。この日祀部は先の日置部と同じような職務とされているので、この尊の全国キャンペーンがなされたと考えられる。このような活動の結果、全国に「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」を祭神とする神社が多数創建されることになる。例えば、

- ・他田坐天照御魂神社（おさだにますあまてるみたまじんじゃ）〔奈良県桜井市〕
- ・鏡作坐天照御魂神社（かがみつくりにます・・・・・・）〔奈良県磯城郡〕
- ・木島坐天照御魂神社（このしまにます・・・・・・）〔京都市右京区〕
- ・新家坐天照御魂神社（にいやにます・・・・・・）〔大阪府茨木市〕
- ・粒坐天照御魂神社（いいぼにます・・・・・・）〔兵庫県龍野市〕
- ・天照神社（てんしょうじんじゃ）〔福岡県鞍手市〕

等である。

これらの神社の内、天照神社のみはその祭神を「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」としているが、他のほとんどは「天照国照彦火明命」を祭神としている。尾張氏の祖神とされる火明命をこんなに多くの場所で祭祀するのは、普通では考えられないことである。これも「出雲隠し」の煽りを受け、神名の後半部分をカットし、書紀に記載された火明命、即ち尾張氏に結び付けて難を逃れたということであろう。最後の天照神社の場合は京から遠く離れていたため難を逃れたのかもしれない。



天照神社（福岡県鞍手市）の案内板

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

先日、ハイブリッドカーとスポーツカーを運転する機会がありました。

ハイブリッドカーは運転してもまったく面白くありません。車の楽しさが感じられません。発進し加速する時は静かなモーター。ブレーキ時の回生ブレーキの違和感。一方、国産最高峰と言われるスポーツカーは驚愕の連続。凄まじい加速とレスポンスの早いステアリング、ありえないぐらい効くブレーキ。すごかったです。

私のように車のエンジン音や振動、サスペンションやタイヤを通しての路面からの振動などがないなんて言う人は、車離れが叫ばれている今の若者にはわかってもらえないんでしょうね。(リマル)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)